

都市再生整備計画 事後評価シート
小倉都心地区(第4期)

令和6年3月

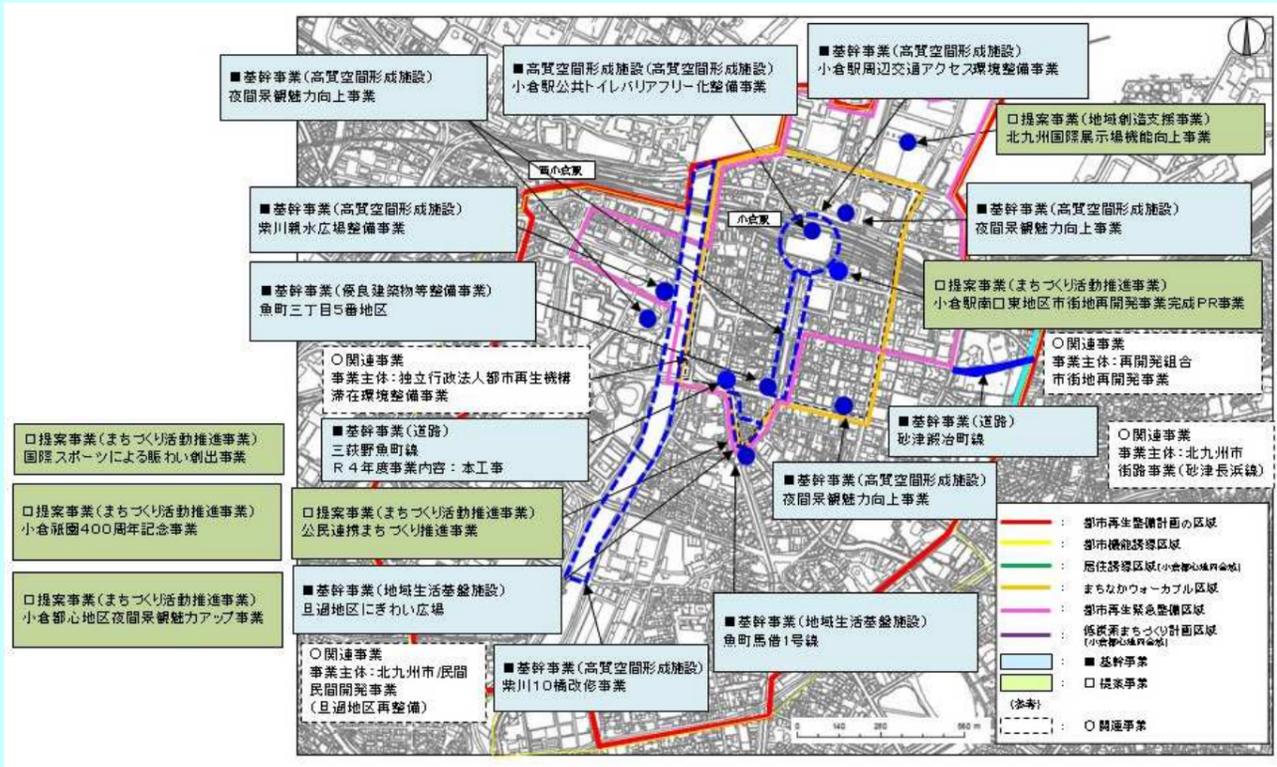
福岡県北九州市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	小倉都心地区			面積	371			
交付期間	令和元年度～令和5年度	事後評価実施時期	令和5年度	交付対象事業費	2,382,898百万円	国費率	0.497					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	【道路】 ・砂津鍛冶町線 【高質空間形成施設】 ・小倉駅周辺交通アクセス環境整備事業 ・夜間景観魅力向上事業	事業名								
		提案事業	【地域創造支援事業】 ・商工貿易会館改修事業 【まちづくり活動支援事業】 ・公民連携まちづくり推進事業 ・国際スポーツによる賑わい創出事業 ・小倉駅南口東地区市街地再開発事業完成PR事業 ・小倉祇園400周年記念事業	事業名								
	新たに追加した事業	基幹事業	【地域創造支援事業】・商工貿易会館改修事業	事業の見直しに伴い、事業の削除を行うもの。	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響							
		提案事業	【事業活用調査】・事業効果分析業務	外部業者を入れず自ら事業分析をすることにしたため。	-							
		基幹事業	【道路】	・三萩野魚町線	橋梁の改修を行うことにより、且過地区のアクセス向上・回遊性向上を図るために追加。	指標2(小倉都心部における観光客数)の目標値を変更。						
			【地域生活基盤施設】	・魚町馬借1号線	モノレールの且過駅と且過地区を結ぶベデストリアンデッキの整備を行い、アクセスが向上を図るため追加。	指標1(商店街エリアを中心とした歩行者通行量)と指標2(小倉都心部における観光客数)の目標値を変更。						
			【高質空間形成施設】	・紫川親水広場整備事業	昼夜における交流人口の拡大、滞在時間の延長、宿泊数の増加等を図り、小倉都心部の賑わいをつくるとともに、消費を拡大させるため追加。	指標1(商店街エリアを中心とした歩行者通行量)の目標値を変更。						
				・小倉駅トイレバリアフリー化整備事業	多様な来訪者が快適で安心なトイレを整備することで、本市の玄関口である小倉駅の更なる利便性と安全性の向上を図るため追加。	指標2(小倉都心部における観光客数)の目標値を変更。						
		・紫川10橋改修事業	紫川に架かる10橋については、整備から約30年が経過しさらなるにぎわいの創出や回遊性の向上を促進するためリニューアルが必要であり、紫川を中心とした周辺施設と一体となった魅力的な拠点を形成するために追加。	-								
		【優良建築物等整備事業】	・魚町三丁目5番地	民間開発を誘導し、都市機能の集積と土地の高度利用を図り、魅力ある小倉都心地区の形成を図るために追加。	指標1(商店街エリアを中心とした歩行者通行量)と指標2(小倉都心部における観光客数)の目標値を変更。							
提案事業	【地域創造支援事業】	・北九州国際会議場機能向上事業	「世界体操」「世界新体操」の競技会場として、国際的水準に配慮した施設を整備するために追加。	指標2(小倉都心部における観光客数)の目標値を変更。								
	【まちづくり活動支援事業】	・小倉都心地区夜間景観魅力アップ事業	夜間景観の魅力向上を図るため、基幹事業のハード整備に併せてこれら取り組みを包括的に発信・活動するための支援をするため追加。	指標2(小倉都心部における観光客数)の目標値を変更。								
交付期間の変更	当初	-	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	-								
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	指標1	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	人/日	153,500	H29	159,400	R5	138,800(R5年度)	△	あり なし	令和元年には目標を達成していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和2年度に歩行者通行量が減少した。だが、近年の歩行者通行量は回復傾向にあることから、賑わい創出を目的とした各種事業の効果はあったものと考えられる。	-
	指標2	小倉都心部における観光客数	万人/年	583.3	H29	601.3	R5	512.2(推計値)	△	あり なし	目標達成には至らない見込み。令和元年末までは外国人をはじめとした観光客数は大幅に増加傾向にあり目標も達成していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、令和2年度激減。コロナ禍以前の水準までは回復していないながら、令和2年度を度として、コロナ禍以前を上回る上昇傾向が見られるため、各種事業の効果はあったものと考えられる。	令和6年10月以降
	指標3	小倉都心部の人口	人	34,392	H29	37,392	R5	36,265(R5年度)	△	あり なし	生活の拠点となる小倉駅の設備改修など各種事業の効果もあり、利便性のよい小倉都心地区へのマンションの建設需要が高まり、小倉都心地区の居住人口増加にも繋がったと考えられる。着実に増加傾向ではあったが、目標数値には至らなかった。	-
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期	
	その他の数値指標1	夜間景観整備エリアを中心とした夜間の歩行者通行量	人/日	6,423	H29	/	/	6,863(R5年度)	/	/	新型コロナウイルス感染症の影響を受け、夜間の交流人口が落ち込んでいた時期もあったが、R5年度には従前値より多くの歩行者通行量が確認できたことにより、賑わいが回復傾向にあり夜間景観などの効果が現れていると考えられる。	-
その他の数値指標2	小倉都心部における地価公示価格	円	334,667	H30	/	/	376,556(R5年)	/	/	地価公示価格は、平成30年から令和5年において上昇傾向にあり、質の高い都市環境の形成や拠点の魅力向上により、土地の需要が高まっていると考えられる。	-	
4)定性的な効果発現状況	・インフラの充実(安全・快適な歩行空間ネットワークの形成・強化、来訪者の憩いの場・休憩の場・イベント空間等となる賑わい拠点の形成)による賑わい創出・回遊性向上											
5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等							
	モニタリング	-	都市再生整備計画に記載し、実施できた	-	-							
	官民連携による取組	・市施行の且過地区再整備とあわせて、行政と民間が連携し、検討支援を実施。 ・商店街ライトアップ活動支援や協議会とマーケット共同開催、常盤橋周辺ライトアップ実証実験などを実施。 ・イベントでの小倉祇園太鼓の披露、「おもてなし太鼓」など400周年を記念した事業を実施。	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	今後も引き続き、事業実施により培われたノウハウ・ネットワーク等を活かし、民間の自立的な活動へ繋げつつ、民間と連携し、小倉都心地区のにぎわいづくりと地域活性化に繋げていく。							
持続的なまちづくり体制の構築	市施行の且過地区再整備とあわせて、行政と民間が連携し、検討支援を実施。 ・且過総合管理運営会社を設立(R3.2) ・組合再編に伴い新市場組合の設立(R4.4)	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●	これまでの成果を踏まえ、再整備後も安定的な営業を継続させるための管理運営体制及び工事期間中のにぎわい維持を目的とした集客戦略・検討支援を行い、拠点活性化や更なるにぎわいづくりに取り組んでいく。								

様式2-2 地区の概要

小倉都心地区(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要								
まちづくりの目標		目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
大目標	北九州200万人都市圏の中核に相応しい高次な都市機能の集積等による魅力的な拠点の形成と、世界の環境首都として誇れる質の高い都市環境の形成	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	単位: 人/日 153,500 H29	159,400 R5	138,800	R5		
目標1	北九州200万人都市圏の中核に相応しい、多様な人々が交流し賑わう、小倉の個性・強みを活かした、魅力的な拠点の形成	小倉都心部における観光客数	単位: 万人/年 583.3 H29	601.3 R5	512.2 (推計値)	R5		
目標2	世界の環境首都として誇れる、多くの人が集まり、安全安心に、快適で便利な豊かな暮らしを実現できる都市環境の形成	小倉都心部の人口	単位: 人 34,392 H29	37,392 R5	36,265	R5		
目標3	公民が連携した取組の推進と遊休不動産や公共空間等の有効活用による、新たなまちの活力の創出							



まちの課題の変化

- 引き続き北部九州圏の拠点を担うため、高次の都市サービス機能を維持するとともに、地域の特性を活かしながら、魅力をさらに磨いていくことが必要
- 都市で享受できる高い利便性を維持・向上させ、災害に強く、安全・安心で快適に暮らせる、コンパクトなまちづくりを進めていくことが必要
- 社会ニーズに適応した都市基盤・公共施設の更新・整備が必要
- 遊休不動産や公共空間を有効に活用することで、まちの賑わいや活力のさらなる向上につなげていくことが必要
- コロナ禍で落ち込んだ、インバウンドをはじめとした観光需要の回復を図るための取組が必要
- 日帰り観光より宿泊観光の伸びが小さいことから、観光客の滞在時間の延長、宿泊増加を図るため、夜間における更なる賑わいづくり・魅力向上が必要
- 公民の活動の場となる拠点の整備や公民が連携したまちの賑わいづくりが必要
- ゆとりある心豊かな生活に伝えるため、自然と調和した生活環境やまちの空間整備が必要
- 全国に先んじて一番高齢化が進んでいる政令指定都市として、成功モデルになるため、都市の課題に効率的に取り組むことが必要

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

今後も引き続き、第5期計画として、都市再生整備計画事業を推進する。(大目標: 北部九州圏の拠点を担うため高次な都市機能の集積等による質の高い魅力的な拠点の形成と、SDGs未来都市として持続可能な都市の形成)

- ①自由に・快適に働ける場所の創出や企業進出を促進する環境整備、高次の都市機能と質の高い都市環境の形成、持続可能な都市基盤や公共施設の整備と維持管理、安全・安心で便利・快適に暮らせるまちづくり
- ②観光客の受け入れ体制の強化、観光資源の磨き上げ、小倉の個性や強みを活かした観光コンテンツの開発、更なる魅力の発信など国内外から訪れたい魅力あふれるまちづくり
- ③まちに暮らす・訪れるすべての人が期待感や高揚感、喜びや安らぎが感じられるまちづくり